弘濟寺かわら版

第51号
平成25年3月17日発行
弘濟寺　玉野千枝編集
弘西寺131　0465(74)1717
弘濟寺　検索

てりむくり

待ちに待った春がようやくやって参りました。この一年は私にとって長くもありました。短かくも充実した一年間でありました。お陰様で庫裡・客殿が3月末にて完成し、客殿は、4月より使用できるようになります。皆様にはご迷惑をおかけしませんでしたが、これからも日々精進してまいりますので、よろしくお願いいたします。

「堂々たる玄関」

ところで「てりむくり」という言葉をご存知でしょうか。普段あまり耳にしない言葉ですが、建物の屋根で、反ったものを「むくり屋根」、盛り上がるように膨らんだものを「てりむくり屋根」といいます。その「てりむくり」と「むくり」が連続した、正にいいます。玄関の屋根のようなことを「てりむくり」と言えるなんとも心惹かれるものを感じます。このたい形状には風格があり、「唐破風（からはふ）」と呼びます。このような屋根のことを「唐破風」ですが、銭湯でも見られます。お城やお寺でよく見られますが、もともとお風呂とお寺の関係は深く、「体を洗い清めるお寺では「お風呂（蒸し風呂）」を一般の人にも開放する「施浴」が行われていました。最近は見られなくなりましたが、霊柩車にもこの唐破風がついていましたね。豪華絢爛な車に乗せて移動した乗せるのは忍びないと、亡くなった方を普通車に乗せるのはまない黒い高級車を霊柩車とするところが多く、最近は飾りの時代の流れを感じます。

唐破風が使われている場所はお城やお寺、銭湯に霊柩車といろいろありますが、この場所に共通点があると言っているのは、銭湯や霊柩車を研究している「町田忍さん」です。お寺も銭湯も霊柩車も入ればそこは極楽……なんですって。なる程。そういう見方もあるのですね。

そんな奥の深い唐破風がついた弘濟寺は、今後も皆様のてりもむくりも（良い時も悪い時も）全て受け入れられるような場所でありたいと思います。

大黒のお茶の時間ですよ

俵屋吉冨製　京のおまんじゅう「八重」

おまんじゅうが大好きな三男が、テーブルに置いてある「八重」を発見。すぐに食べてしまうと思ったらパッケージを見て、あれ？八重って会津出身なのになんで「京都なの？」そうです。大河ドラマの「八重の桜」の主人公山本八重は会津うまれですが、兄の覚馬を追って上洛し、新島襄と結婚。新島襄は同志社大学を創設。京都とは深い関係なのです。

八重の桜とのタイアップ商品である「八重」は春と秋の限定商品で、春は八重桜、秋は八重菊をイメージしています。袋を開けたところ、たいして変わり映えのない、お茶が欲しくなる様なぽそぽそまんじゅうと思いきや薄い皮がぷにゅぷにゅしていて中の漉し餡が薄い皮に絡まって優しい味です。

地蔵堂屋根塗替え

庫裡・客殿建設に伴い地蔵堂の屋根を赤から黒に塗り替えました。

本堂引起こし工事

南側を5cm引き起こして本堂の傾き修復ができました。

今後の予定

- 2月15日～3月23日
  お彼岸まで涅槃図を出してあります。ご覧下さい。
- 3月21日
  弘法大師入定会
- 4月8日
  花まつり（今年は都合により当日のみ）
- 5月12日
  弘濟寺施餓鬼会

(有)勝又
仏壇・仏具のご相談は勝又へ
塚原2705　仏具部73-0004

おいしさに　心をこめて　お届けの
みづほ野
0120-185-044

お花のことなら
フラワーショップ
よしだ
(73) 8787

足柄　ハリカ
ご法事のお返し物は品揃え豊富な
ハリカにお任せください。
飯沢51-4　火曜定休（祝祭日は営業）
TEL0465(74)5221

真言宗の本山

◎泉涌寺（せんにゅうじ）
◎京都市東山区
◎真言宗泉涌寺派
◎本尊：釈迦如来・弥勒如来・阿弥陀如来
◎開基：伝・神修上人
◎創建年：伝・斉衡3年（856年）

泉涌寺は真言宗泉涌寺派の大本山です。

弘済寺の檀家さんは、平成18年に団参旅行でお参りした方もいらっしゃいますね。覚えていますか。私の一番気に入っている場所は大門から見る景色です。遠くに月輪山が見え、手前に仏殿（本堂）が見えます。左右には木が生い茂り、まるで門を額にした写真のようです。

「仏殿の前にて」平成18年団参参加者の皆さん

100m程ある参道をゆるやかに下って行くと、仏殿が除々に大きく姿を現してきます。この仏殿の中には運慶作と伝わる（阿弥陀像、釈迦像、弥勒像）が安置され、天井には江戸時代の画家狩野探幽（かのうたんゆう）の「蟠龍図（ばんりゅうず）」が描かれています。ここのお堂では、3月15日に日本最大の大きさを誇る涅槃会法要が行われます。その大きさなんと縦16m横8m。16mというと、およそビルの5階に相当します。大きすぎて、天井から掛けられず、お堂の中にはお掛けるのにかけるのだそうです。弘済寺の涅槃図はこれに比べると全然小さいですが、お彼岸中本堂に出していますので、ご覧下さい。

「大門から見る景色」

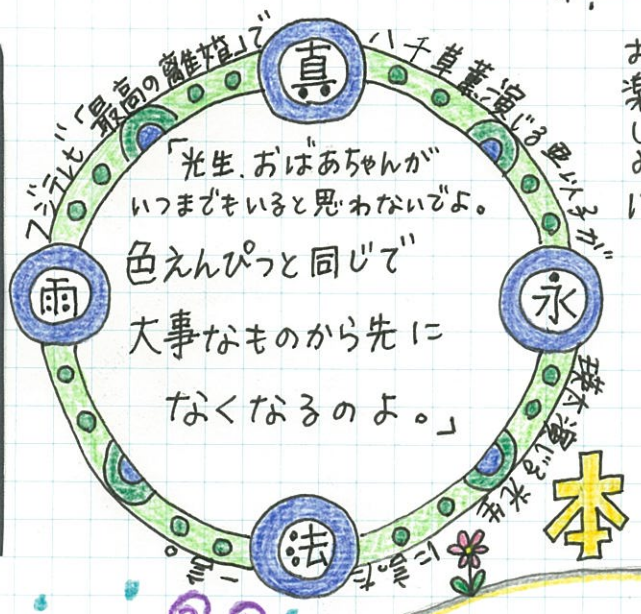
話を戻して、仏殿の前には浴室があり（残念ながらここは唐破風ではありません）その近くには、泉涌寺の名の由来となった泉があります。

女性に人気なのは楊貴妃観音像。「楊貴妃のような美しい女性になれますようにと願う方はこちらにお参り下さい。

泉涌寺は、天皇家からも篤く信仰され、歴代の御陵（お墓）が39陵もあります。皇室との関係が深いことから御寺へみてらーとも呼ばれています。この御陵の周りには瓦の塀があるのですが、数年前の瓦替えの際に住職が古い瓦を数枚頂く事ができました。本堂に飾ってありますので是非御覧下さい。菊の御紋入りです。

真言宗の大本山シリーズも9寺目となりました。あと9寺ありますのでお楽しみに。

石のことなら
齋藤石材
苅野一四一七
七四一三八六五



寺カル

お申込は 0465(74)1717 kosaimitsuji@ybb.ne.jp

TOMOZOの
◎ヨーガ教室

- 毎週水曜日10時～
- 場所：弘済寺本堂
- 参加費：1回1000円

⚠ 都合により、3月20日 4月2日はお休みします。

仏教を学ぼう会
◎大人の寺子屋

- 3月24日
- 4月 } お休み
- 5月 }
- 15時より
- 弘済寺客殿にて
- 参加費はお賽銭として随意
- 持物：筆記具・数珠

『とんび』 重松清 著

TBSの日曜ドラマ「とんび」見てますか？泣いてますか？3月17日に最終会を迎えます。第1回は先が読めるのに号泣最終回もタオルなしでは見られないでしょうね。

重松清と言えば家族愛をテーマにしたものが多いですが、この話も妻を失った、照れ屋でどこまでも不器用な父と、真面目で優しい息子との親子の絆の物語。なかなか父子家庭ではうまくいかないところで、周囲の人達がすごくいい言葉をかけて助けてくれるんです。特に幼なじみの友達の父（住職）の言葉が泣かせる。ちょっとネタばらしですが、母親のいない旭（息子）が問題を起こした時、父（ヤス）に「おまえは海になれ。（悲しみの雪が降っても地面じゃ積もっていく。）なんぼ雪が降ってもそれを知らん顔して呑み込んでいく海にならんといけん。」ってくぅ～～～。泣けますねえ。今回ドラマを見れなかった方は是非原作を読んで泣いて下さい。